「奈良の都の木簡に会いに行こう!2018」(日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンスプログラム)の実施

2018年８月21日・22日、小・中学生向けのプログラムとして、「奈良の都の木簡に会いに行こう！2018」(共催日本学術振興会、後援奈良県教育委員会・奈良市教育委員会)を実施しました。昨年に続き２回目の開催となる今回も、リピーターを含め予想をはるかに上回る多数のみなさまにご応募いただきました。今年もプログラムの運営を工夫し、小５から中３までの応募者全員(計49名)と保護者の方々にご参加いただくことができました。

開講式後、まず「木簡に会ってみよう」では、本物の木簡(水漬け・保存処理済み)をじかにじっくりと観察しました。そして用意した木簡で、参加者自身の名前に使われている漢字探しをしました。木簡と古代の漢字に親しみをもってもらおうという趣向です。また、木簡に関する基礎的な情報についても話を聞きました。

「木簡を探してみよう」と「木簡に触れてみよう」は、発掘現場から持ち帰った土を洗浄・分別して遺物を探し出す作業と、収蔵庫に保管してある木簡の水替え作業を体験しました。

２つの作業の合間のお昼には、奈良パークホテルのご協力により、木簡に登場する食材で復元された古代食を味わいました。食後には根拠になった木簡の説明も聞きました。食事はまさに生きた教材です。

最後の「木簡を読んでみよう」では、奈良文化財研究所の庁舎下で、平城京造営時に秋篠川旧流路を埋め立てた土からみつかった「奈良京」と書かれた木簡の解読に挑戦しました。その準備として左半を隠した文字を読んだり、同じ偏(へん)や旁(つくり)をもつ漢字を考えたりするクイズにも取り組みました。

このように、プログラムは、座って話を聞くのではなく、作業を中心にした実習・体験型で構成しました。

水替え作業の様子

1200年以上も前のモノのもつ力を実感していただけたのではないでしょうか。

(副所長　渡辺 晃宏)